

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—リズムが大事—

NO. 81



このところ、児童のクラスに支援で入ることがあり、支援のリーダーを任される日もあります。正直、久しぶりでしたので、前日の風呂の中で、「あれをしたら、これをして…」「こうなったら、こうして…」と場面を想定しながら、思いついてニヤニヤしたり、“待てよ”と何度も考えたり。浴室に響く“朝の会”の歌に気づいて、自分に照れてしまったり。前日から楽しいです。

あんずの一日の支援は、児童にも放デイにもストーリーがあります。「おはよう!」「おかえり!」と出会ってから、身支度をして少し自由に遊びます。その後、身体を動かしたり、座って(身体を止めて)目の前の課題に向き合ったり、身近な大人やお友達との触れ合いを楽しんだり。『動』と『静』のバランスを取りながら、『前』と『今』と『後』がつながるように、子ども達が調子に乗っていくように組み立てていきます。大人が一方向的に引っ張っていくのではなく、子どもの顔を見ながら、取り組み方、楽しみ方、がんばり方を見ながら、内容や取り組み量を増やしたり減らしたりしていきます。まさに、子ども達と一緒に作っていく時間です。あんずの児童は5~6人の小集団ですので、一人ひとりの顔が見やすく、息づかいを感じやすいので、流れに乗りにくい子にも合わせやすくはなっています。

座っているのが苦手だったり、注意を向け続けるのが苦手だったりすると、目の前の事への関心が高くないと、向き合いにくさが出てきます。「ほ~らね」「これ見て!」と提示する人と「あれ何だろう?」「ほら、おもしろそう」と受け止めるサポートをする人の呼吸が合わないと、子どももリズムに乗れません。お互いが嫌な汗をかいてしまいます。

まだ遊びの幅が狭かったり、興味はあっても上手くできなったりすると、提示されたものに、「何だろう」とポジティブに関心を向ける経験が、まだ少ないかもしれません。同じことを何度も繰り返し、提示されて、見て、「知ってる」と感じて楽しむリズムをつかんでほしいなと思います。大人が「またこれか」と、先に飽きてしまわぬよう、繰り返すことの意味をその都度確かめながら、リズムカルな取り組みを作っていくサポーターとなっていく必要があります。

興味関心は高いけど、待ってられない子、黙ってられない子は、流れをさえぎってしまいがちです。気持ちも身体もセーブし過ぎない程度に、リーダーのお手伝いをしてもらったり、見本になってもらったりしながら、程よく待つことと、思いっきり取り組むことを、リズムカルに楽しく経験してほしいなと思います。逆に、「できないよ」と尻込みしてしまう姿があったなら、まずは課題をやさしくして、大人と一緒に「できた!」「OK!」「大丈夫!」を積み重ね、楽しいリズムを感じながら、思わず背伸びをしちゃう雰囲気を作っていきたいものです。

そうはいいますが、毎日毎回その舞台が成功裏に終わっているかといえば、そう上手くはいきません。子どもの姿は日々変わっていきます。育つことで、よい不安定さが出てくることもあります。毎回十分に作戦を練っていても、職員が子どもとのリズムを作り切れない場面もあります。出し手と受け手の呼吸や間合いが合わないこともあります。でもだから、あんずストーリーはおもしろい。あんず劇場は大物役者ぞろいです。こんなに力をつけてきていますからね。

その育ちのリズムに合わせられるよう、私達もまだまだ腕を磨かなきゃです。(R5. 2) K

